



「さっぽろっ子環境ウィーク」における SDGs アクション

宣言

身近な環境保護活動の意味を見つめなおそう

～日頃の取組が本当に役立っているのか批判的に調べてみよう～

取組の流れ

生徒会の活動計画の1つ「ペットボトルキャップ回収」を見つめなおす

① 生徒総会で活動計画の審議と決定

・既存の活動のため「エコキャップ運動」は特に話題ともならず承認された

② 近隣の小学校（稲穂小）への協力依頼

・小学校から活動の成果報告などがあると次の意欲につながると要望うける

③ 中学校での日常の回収活動

・ボトルキャップロケットを設置してペットボトルキャップ投入する

④ 集まったペットボトルキャップを回収拠点へ届ける

・手稲区では社会福祉協議会、コープさっぽろ、HondaCars などが回収

⑤ 届けたペットボトルキャップがどのように生かされるのか調べる

・下記のような【Good な効果】や【Bad な状況】があることがわかった

⑥ 活動の意味を小学生に成果とともに伝える

・調べた内容は小学生向けに取捨選択してポスターにまとめ、届ける

【キャップ回収の Good な効果】

ペットボトルキャップをゴミとして出さないことで、プラごみの削減につながる。回収されたキャップはゴミ袋や買い物かごなどの原料に再利用され、資源として循環している。

→ これらの活動意義を小学生に伝える

【キャップ回収の Bad な状況】

ペットボトルキャップは1kg（約400個）10円で取引され、発展途上国の子ども達にポリオワクチンを提供する費用にも充てられている。しかし買取価格の下落や、輸送およびプラスチック処理コストの増加により利益につながらず、ワクチンの購入費生み出せなくなってきている。

→ マイナス面はまだ小学生には伝えなくてよいだろう

次年度の取組に向けて

今年度は、これまで環境保護のためと何気なく取り組んできた「ペットボトルキャップ回収」が、どのように環境保護につながっているのか、生徒会役員が自分達で調べることで活動の意義を学びなおすことができた。また、深く調べることで、環境保護活動は時代とともに当初の狙いを達成できなくなっている場合があることも知り、日頃の取組を批判的に検討する必要性を感じることができた。

生徒会活動では、自治活動の中で情報伝達に大量の紙を用いたり、装飾物などを制作しては、イベント後に大量のごみを廃棄している現状がある。次年度は、身近な環境保護活動の意義を批判的に調べてみる活動として「札幌市のごみの分別処理」に着目し、その意義と実情に触れることで、ゴミ削減について考えるきっかけとしたい。